心臓超音波検査中に心肺停止となり心肺蘇生が行われた一例

◎清水 盛也[1)]、藤嶋 利花[1)]、武藤 詩織[1)]
能代厚生医療センター[1)]

【はじめに】生理検査室で心臓超音波検査(以下 UCG)施行中、心肺停止となり『99 番コール』(当院で患者が急変した際の「緊急事態発生」で至急全員集合)院内一斉放送がされ、心肺蘇生が行われた一例を経験したので報告する。
【症例】80 歳代男性。【現病歴】意識障害で当院受診(普段は車運転、買い物等可、アルコール多飲あり、一ケ月前程より食事量減)、摂食不良による脱水症、腎不全、低血糖、高カリウム血症、高尿酸血症、代謝性アシドーシスを認め入院となる。【検査所見】血糖 51mg/dl, BUN46.2mg/dl, CRE2.37mg/dl, K5.8mEq/L, Tn-I258.1pg/ml, MYO3628.0ng/ml, CPK279IU/L, 血液ガス PH7.265, HCO3-15.1mmol/l 心電図：心拍数 102bpm,洞調律、全体的に低電位、V1-V3 で poor R を呈していたが、明らかな ST 変化は認めていなかった。【経過】入院後、補液等で低血糖、高カリウム血症、代謝性アシドーシスは、改善を認め、意識レベルの改善(JCSⅡ30→Ⅱ10)も少しみられた。入院 3 日目に UCG が施行された。【UCG 所見】IVST10mm,PWTd11mm, LAD32mm, LVDd28mm,LVEF72%,FS40%,全周性左室肥大と内腔狭小認め、収縮能は良好で、局所壁運動異常は認めていなかった。右房拡大認め TR 中等度以上・推定右室収縮期圧 56mmHg と算出された。検査途中より徐脈傾向となり同時に左室収縮能低下を認めた。呼吸状態も悪く、呼びかけにも反応なく緊急事態と判断して他のスタッフに 99 番コールを依頼した。心臓マッサージ開始、アンビューで人工呼吸も開始された。主治医到着後、ベッド搬送にて病棟へ戻り、家族に急変説明され永眠された。【まとめ】UCG 検査開始当初と終了前とで急激に、徐脈傾向と心機能増悪を認めた一例を経験した。明らかな原因不明であったが、多臓器不全のターミナルと考えられた。緊急事態発生時の対応として、『99 番コール』発生時の対応研修会をスタッフ全員が受講していたことが、迅速な対応につながったと考えた。ただし人工蘇生望まない患者の対応については、今後検討しなければならないと考えた。意識レベル低下、状態の思わしくない患者の検査は、できるだけ病棟ポータブル検査で対応するべきとも考えた。

連絡先：0185-52-3111(内線)8812